

概 説

新型コロナウイルス感染拡大が続く中、我が国はかつて経験したことのない事態に直面している。連盟では京都市との連携を密に取りながら情報の共有に努めると共に、研修会や各種会議のあり方を工夫し感染拡大の防止に努めながら事業を行うこととする。さらに、施設長会とも連携を図り現場の声を十分に反映させながら京都市に対しても必要な協議を行うなど、各館所が円滑に事業展開できるよう支援していきたい。

さて、令和元年度は「京都市児童館活動指針」の改訂の年にあたり、事業推進委員会を中心に改訂作業を行った。改訂を行うにあたっては、国における「児童館ガイドライン」の改訂や子どもや子育てを取巻く状況の変化、さらに前回改訂以降の実践の蓄積や法令の改正等を踏まえ、求められる児童館・学童保育所の役割を明瞭に表現するよう留意した。

学童クラブ事業は、共働き家庭の増加を背景に全体として登録児童数は増加傾向が続いているなかで、複数クラスでの運営や、高学年も含めた集団作りも各館所の工夫と努力の中で経験が蓄積されてきているが、実施場所と人材の確保が依然として大きな課題となっている。

連盟では、優秀な人材の確保を目指して「京都市児童館人材マッチングセンター」で、児童館の仕事の魅力を発信するパンフレットを新たに作成した。このパンフレットを活用し、施設長会が中心となり京都市内の大学、専門学校等、約30校を訪問して就職担当者と面会した。令和2年度も児童館・学童保育所が働き甲斐のある魅力的な職種であることを説明し人材の獲得に繋げていきたい。また、市内2つの大学と京都市並びに連盟と連携協定を締結した「インターンシップ事業」を行った。令和元年度の参加学生は数名にとどまったが、協力いただいた児童館の丁寧な指導により、児童館の役割や仕事としての魅力を伝えることができた。

10月に梅小路公園で開催した「京都やんちゃフェスタ2019（第1部）」は天候にも恵まれ、約41,000名の来場者を迎え大きな賑わいの中で開催することができた。やんちゃフェスタでは、令和3年2月に京都で開催を予定している「児童館・児童クラブ全国大会」を展望し、福井県、滋賀県、大阪府、神戸市の4都市にブース出展を得て、他都市と京都市との実践の交流を図った。11月には「京都やんちゃフェスタ2019（第2部）」、1月には「親子でにこにこ笑顔いっぱい」をそれぞれ開催し、子どもや子育ての大切さや、「子どもを共にはぐくむ京都市民憲章」の普及、啓発を市民に対して行った。

「学習支援事業」は、取組む児童館が50館となり、参画する大学生も延べ約2,000名となり、その規模の拡大を図ることができた。

働き方の多様化や核家族化の進行の中で今後も需要が見込まれるファミリーサポート事業は、事業の普及と新規会員の獲得を目指し、市内の大規模商業施設で普及イベントを開催するなど、従来とは異なる方法で活動を展開した。

令和元年度は活動指針の改訂をはじめ、人材の確保や福祉課題への取組などを積極的に行ったところであり、令和2年度に向けて、連盟は引き続き児童館・学童保育所の活動を活性化させ、活動を強力に支援する役割を自覚し取組を進めたい。

I 健全育成・子育て支援事業

1 各委員会活動

(1)事業推進委員会

1 令和元年度 事業目標

本委員会は、「京都市児童館活動指針」(以下「活動指針」という。)の浸透を図り、児童館・学童保育所が「活動指針」に基づいた活動を推進することを支援し、児童館・学童クラブ事業の全市的発展・推進を図ることを事業目標としている。

国においては、平成30年10月に児童館ガイドラインの改正が行われ、昨今の児童福祉法の改正や、子どもの福祉的な課題への対応、子育て支援に対する児童館が持つ機能への期待を踏まえた内容へと改正が行われ、また、京都市においては、令和2年4月を始期とする「京都市はぐくみプラン(京都市子ども・若者総合計画)」が策定されたことから、それぞれの内容と児童館・学童保育所実践の積み重ねを踏まえて活動指針の見直し作業を行う。

2 令和元年度 活動報告

事業目標に基づき、各施設へ前回の改訂から5年が経過した中での積み重ねてきた実践について意見を募るとともに、当委員会の中で、「統括会議」「チーム会議 A・B」と作業チームを分けて組織し、各会議の中で、議論を重ねて改訂作業を進めた。

各施設から意見を募ることや、委員会を分けて少人数での会議を組織することで、家庭や地域を視野に入れたソーシャルワーカーとしての実践や新制度以降の学童クラブにおける実践等、さまざまな児童館・学童保育所の実践を踏まえた意見を新たな活動指針に盛り込むことにつながった。

また、「児童館ガイドライン」や児童福祉法における改正のポイントや、「京都市はぐくみプラン」における児童館・学童保育所の役割等、関連法令等についても議論を重ねながら改訂作業を進めることができ、新たな活動指針を改訂することができた。

令和元年度 活動実績

月	活動内容	委員会 / 会議等
4月	「活動指針改訂」に向けて検討・準備	第1回正副委員長会議(4/23)
5月	年間活動計画決定 委員に向けた意見募集	第1回委員会(5/14)
6月	6月末を目途にブロック施設長会で意見募集	第2回正副委員長会議(6/5) 第2回委員会(6/21)
7月	7～8月にかけて各委員会による改訂作業	コア会議(7/8) 第1回統括会議(7/11) 第1回Bチーム会議(7/18)

		第1回Aチーム会議(7/23)
8月	↓	第2回統括会議(8/28)
9月	A/Bチームそれぞれで改訂箇所及び各委員による2回目の改訂作業	第3回統括会議(9/2) 第2回Aチーム会議(9/25) 第2回Bチーム会議(9/26)
10月	↓	
11月	全委員による進捗状況の確認・共有	第3回委員会(11/7) 第4回統括会議(11/27)
12月	統括会議レベルでの最終確認作業	第5回統括会議(12/2) 第6回統括会議(12/20) 第7回統括会議(12/22)
1月	↓	第8回統括会議(1/16) 第9回統括会議(1/20) 第10回統括会議(1/22)
2月	↓	第11回統括会議(2/7)
3月	↓	第4回委員会(3/18)

(2) 処遇・施設委員会

1 令和元年度 事業目標

本委員会の基本方針である「職員処遇および施設・設備の現状を調査分析し『京都市未来こどもはぐくみプラン』ならびに、『京都市児童館活動指針』を推進する立場から職員処遇、施設・設備のあり方を検討する。」という趣旨を踏まえたうえで、職員処遇向上のための理解促進(勉強会)及び、次年度の要望項目の検討を行った。

2 令和元年度 活動報告

今年度は、国の働き方改革において勤怠管理の厳格化や残業時間の削減等が求められている背景を受けて、超過勤務手当に係る各館所の状況についてアンケートを行った結果、地域連携を促進する中で夜間に行われる地域会合への出席の増加や、複数クラスや施設外クラスにおけるクラス担当等の職員が雇えない中での超過勤務手当の時間数の増加の改善等が意見として挙がってきた。

また、正規職員の処遇については引き続き給与の抜本的な改善を求めること、施設面でのトイレの男女別化の推進、老朽化に伴う耐震補強等における改善、施設外クラスにおける他団体との共有スペースの解消が必要だとする議論が行われ、これらの議論をもとに次年度の要望項目への意見をまとめた。

	会義等	活動内容	備考
4月22日	第1回正副委員長会議	*平成30年よりは引継事項の確認 *今年度の活動と基本方針について	

5月13日	第1回委員会	<ul style="list-style-type: none"> *平成30年度より引継事項の確認 *今年度の活動と基本方針について *今年度2年度京都市予算に対する要望書について *今年度委員会で取り組む調査活動について 	
6月		<ul style="list-style-type: none"> *各ブロックにアンケートを依頼・集約 ○職員の超過勤務手当時間の年間限度時間枠について ○職員の超過勤務手当時間の区分の柔軟な運用や区分制限の廃止について 	
7月2日	第2回委員会	<ul style="list-style-type: none"> *令和2年度京都市予算に対する要望書の項目について 	
9月			12日 京都市へ予算要望書提出
3月16日	第3回委員会	<ul style="list-style-type: none"> *第3回予算対策特別委員会の報告 *今年度の振り返り *今後の委員会について 	

(3) 予算対策特別委員会

1 令和元年度 事業目標

予算対策特別委員会は、連盟理事会の諮問機関として、理事会が京都市に働きかけるための要望書を起案し、京都市の児童館・学童クラブ事業を安定させるための制度・政策の向上と予算対策活動の推進を行う。

各専門委員会の意見・要望等を横断的に聴取・集約することで実情に合った要望をすくい上げると同時に、京都市児童館活動指針の十分な推進を旨として予算要望が策定されるよう委員会活動を行う。

2 令和元年度 活動報告

- | | |
|---------------------------------|-----------|
| 1 第1回 委員会 | 令和元年7月17日 |
| ・年間スケジュールの決定 | |
| 2 第2回 委員会 | 7月26日 |
| ・各専門委員会からの要望事項の集約 | |
| ・令和2年度京都市予算に対する要望書(案)の検討 | |
| 3 第46回 理事会において要望書(案)を提示し承認を受ける。 | 8月8日 |
| (以下要望骨子) | |
| (1)最重要要望 | |

- ①「京都市児童福祉法に基づく事業及び施設の人員、設備及び運営の基準等に関する条例」に定められた基準の速やかな達成
- ②一元化児童館 130 館の枠にとらわれない積極的かつ柔軟な対応
- ③高い離職率を改善するための職員処遇の抜本的改善
- ④活動指針に基づく児童館事業の円滑な実施のために必要な事業費の確保
- ⑤学童クラブ 1 クラス運営の児童館における正規職員 4 名体制の復活

(2)重点要望

- ①事業の実施状況に応じた事業費加算制度のより一層の充実
- ②職員確保と定着の観点から、住宅手当・扶養手当の創設
- ③分室及び施設外クラスの施設環境の整備及び副館長の職員の配置に必要な措置
- ④超過勤務手当枠の拡大と、柔軟な運用のために必要な措置
- ⑤多様化する放課後対策の中であって、一元化児童館における学童クラブ事業の京都市の位置づけの堅持
- ⑥障害のある児童の登録人数が増加する中での介助ボランティアに対する謝金単価引上げと交通費の創設

(3)要望

- ①経年劣化の危険性がある既存の非常通報システムのあり方の見直し
- ②個別対応が必要な子どものために必要なスペースを確保するための施設増改築の検討
- ③地域の子育て支援・健全育成の拠点として多様な市民が来館されることを踏まえたトイレの整備(様式化・バリアフリー化を含む)
- ④「第 17 回全国児童館・児童クラブ京都大会」開催に係る人的・物的支援の提供

4 「令和 2 年度京都市予算に対する要望書」の京都市提出 9 月 12 日

5 要望に対する回答 令和 2 年 2 月 13 日

令和 2 年度京都市児童館・学童クラブ事業関係予算案についての説明が、連盟三役に対してなされました。

○令和 2 年度予算概要

(1) 児童館・学童クラブ事業等	予算額	【4, 447, 690千円】
	平成 31 年度予算額	【4, 206, 453千円】
・医療的ケア児の受入支援	8, 400千円	
(2) 児童館整備	予算額	【56, 304千円】
京都市楽只児童館 整備		
(3) 民間保育所等整備助成	予算額	【239, 600千円】
「博光福祉会新設園(仮称)」(新設)	場所：南区久世上久世町	
地域学童クラブ	定員 25 人分(予定)	

京都市との懇談の場において、京都市財政が厳しい中、児童館、学童クラブ事業の重要性に鑑み、昨年を上回る予算額を措置されたことに大いに歓迎するとともに、学童クラブの「基準」に基づいた運営を行うための実施場所の確保等について引き続き努力いただきたいと要望した。

これに対し、京都市からは、国の基準の「参酌化」への緩和に対して、条例改正することなく、国基準に基づく運営ができるよう場所の確保に取り組むとともに、人材の確保については「児童館人材マッチングセンター」と連携していくとの回答を得た。

6 第3回 委員会

2月26日

- ・「令和2年度京都市予算に対する要望書」に対する京都市回答の報告
- ・令和2年度予算特別委員会活動予定案の決定

(4) 研修委員会「2 児童館・学童保育所職員の資質向上のための研修」の項を参照。

(5) 統合育成委員会「3 障害のある児童の統合育成事業」の項を参照。

(6) 広報委員会「5 広報活動」の項を参照。

(7) やんちゃフェスタ 2019 実行委員会「6 京都やんちゃフェスタ 2019 の開催」の項を参照。

2 児童館・学童保育所職員の資質向上のための研修

1 令和元年度 事業目標

- ・「京都市児童館活動指針」に基づき、児童館・学童保育所職員の資質向上を目的に、京都市から受託する児童館・学童保育所職員研修事業を実施する。
- ・「中堅職員派遣研修」については、今後も本研修の重要性を認識し、より多くの職員が参加できるように努めていく。

2 令和元年度 活動報告

令和元年度は、事業計画で示した年間25回の研修会を開催予定であったが、3月に開催予定であった「上級研修」「施設長研修」については、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から開催中止とした。

各研修会の企画から実施にあたっては、現在の児童館・学童保育所職員に必要なスキルを修得でき、実際に活動に生かしていける内容となるように心掛けた。

「中堅職員派遣研修」では、参加した職員と研修者を受け入れた施設長が、どのような成果と課題を得たのか、より具体的に振り返ることができるよう、研修終了後の報告会においては、報告だけでなくグループワークも取り入れて内容を深めることができた。

ブロック企画研修では、他ブロックの研修の企画・運営を相互に学ぶために、研修委員が他ブロックの企画研修に参加した。

(一財) 児童健全育成推進財団の主催する研修への派遣については、応募者が募集定員に満たない研修もあり、令和2年度は積極的な参加を促すよう各館所へ発信が必要である。

(1) 委員会 (年間5回: 4月、6月、9月、11月、3月)

- ・ 行政研修、派遣研修の内容や予定の確認と、実施した研修の報告。
- ・ 全7ブロックで実施する実技研修とブロック企画研修の立案、企画、事後報告。

(2) 研修会

- ① 行政研修
- ② (一財) 児童健全育成推進財団への派遣研修 (次表を参照。)

①行政研修

※ ()は外部受講者人数

実施日	科目	講師		受講者数
4月24日	健全育成論	國重晴彦	京都市児童館学童連盟 健全育成・子育て支援統括監	105人 (内35人)
4月24日	児童館論Ⅰ	三浦正人氏	京都市御室児童館 館長	73人 (内3人)
4月25日	児童館論Ⅱ	佐々木三恵子氏	京都市藤城児童館 館長	73人 (内3人)
4月25日	京都市の児童館・学童クラブ事業	高橋睦巳氏	福西児童館 館長	103人 (内33人)
5月14日 ~23日	救急法「普通救命講習Ⅲ」	消防署救急係	京都市消防局 各行政区	158人 (内46人)
6月4日	実技研修 野外活動	砂山真一氏	ポジティブアースネイチャースクール 代表	30人
6日	安全指導・安全管理	松野敬子氏	一般社団法人いんふぁんと room さくらんぼ 代表理事	149人 (内66人)
10日	実技研修 ゲーム・運動遊び	大熊晋氏	下京青少年活動センター所長	34人
11日	実技研修 科学遊び	平田豊誠氏	佛教大学 教育学部 准教授	36人
12日	実技研修 身体表現活動	木戸史氏	七実の木保育園 非常勤	34人
13日	実技研修 造形表現活動	富岡清子氏	たんぽぽ文化企画	34人
19日	実技研修 児童文化財活用法	丸本泰三氏	前 京都市七条第三児童館 館長	35人
25日	配慮を要する児童の対応	小田浩伸氏	大阪大谷大学 教育学部教授	99人 (内20人)
26日	実技研修 音楽表現活動	河合美紀子氏	音楽劇団 てんてこ	35人
7月5日 9月27日 10月10日 12月5日	障害のある児童の統合育成	灘裕介氏	作業療法士	156人 (内53人)
7月19日	児童文化財活用法2	堺早映子氏	人形劇・ファミリーひみちゃたい	47人

10月17日	集団援助技術 講義・演習	渡邊慶一氏	京都文教短期大学 幼児教育学科 教授	134人 (内22人)
12月16日	人権研修	柴田長生氏	京都文教大学臨床心理学部 教育福祉心理学科 教授	130人 (内51人)
2月17日	児童の発達理論 (乳幼児期)	礪波朋子氏	京都光華女子大学 健康科学部 心理学科 准教授	143人 (内38人)
3月2日	上級研修	中止		
3月3日	施設長研修	中止		

9月3日 ～18日	中 堅 研 修	中堅職員派遣研修			20人
12月19日		中堅研修「特別講義」	國重晴彦	京都市児童館学童連盟 健全育成・子育て支援統括監	69人
1月27日・31日		ソーシャルワーク論	浦田雅夫氏	京都造形芸術大学 芸術学部 子ども芸術学科 教授	53人
5月20日	中 堅 派 遣 研 修	中堅職員派遣研修事前説明会			28人
7月17日		中堅職員派遣研修オリエンテーション	前川修氏	京都市児童館学童連盟 研修委員会 委員長	40人
10月31日		中堅職員派遣研修事後研修会			20人
11月1日		中堅職員派遣研修施設長報告会			19人

※ブロック企画研修(「児童館・学童クラブ研究Ⅰ」)

ブ ロ ック	実施日	テーマ	講 師		受講者数
1	7月3日	魅力的な広報物を制作するために	上川敬洋氏	TAACHI	30人
	1月16日	各館所における乳幼児親子に関するおすすめ の取組、対応について	各館所の厚生・指導員		30人
2	10月30日	遊びの研修会 ～けん玉の指導と取組について～	上木淳氏	京都市高野児童館 厚生員	23人
	1月23日	怒りのコントロール法	小林由枝氏	ぶらすの時間こえだ	27人
3	7月3日	支援を要する児童と保護者への関わり方と その対応について	岡崎達也	京都市児童館学童連 盟 主任厚生員	26人
	11月6日	子どもを伸ばす言葉がけ	橋本麻由美氏	日本褒め言葉カード インストラクター	34人

4	9月4日	こどものあそびを学ぶ	内田克明氏	京都市新道児童館 館長	26人
	11月13日	子どもたちとの接し方や対応を学ぶ	毛利豊和氏	京都外国語大学 非常勤講師	26人
5	6月20日	児童館の避難訓練・応急処置について	署員5名	右京消防署	23人
	11月8日	各館のおすすめ工作	各館の厚生員		20人
6	7月23日	小学生対象の遊びの紹介	磯間竜義氏	キッズいわき・ぱふ	24人
	11月25日	親子ふれあい遊びの実践	各館所の厚生・指導員		28人
7	7月10日	乳幼児を対象にした手遊び・交流遊び	各館所の厚生・指導員		25人
	11月20日	困りを抱えた子どもたちへの理解と支援	岡崎達也	京都市児童館学童連 盟 主任厚生員	28人

② (一財) 児童健全育成推進財団への派遣研修

研修名	実施日	場 所	受講者	
児童厚生員等基礎研修会(静岡会場)	6月25日～28日	静岡県 掛川市	中野ひかり 楠本麻衣 栗田知 畑裕樹	(修徳) (向島南) (羽束師) (桂)
児童厚生員等基礎研修会(大阪会場)	9月10日～13日	大阪府 大阪市	代田千笑 藤井美保 福田諒 半田誠 田岡智子	(上高野) (御室) (ももやま) (南浜) (大原野)
中堅児童厚生員等研修会	10月15日～18日	大阪府 大阪市	酒井育絵 吉良隼悟 阿部昭子 西村千夏	(陵ヶ岡) (向島南) (桂徳) (桂東)
全国児童厚生員等指導者養成研修	12月3日～5日	東京都 町田市	渡邊洋子 服部和代	(葵) (白川)
児童厚生1級特別セミナー	12月16日	東京都 渋谷区	溝口晋太郎 松本紀子	(たかつかさ) (桂徳)
全国子どもの健全育成リーダー 養成セミナー	2月2日	東京都 江東区	北口克巳 森谷年裕 松本紀子 竹村達郎	(大塚) (辰巳) (桂徳) (一橋・桂東)

3 障害のある児童の統合育成事業

1 令和元年度 事業目標

- (1) ノーマライゼーション理念に基づく学童クラブ運営と、児童館・学童保育所職員の統合育成にかかる専門性の向上を図る。
- (2) 障害のある児童を支える関係機関との連携及び協力体制の確立を目指す。

2 令和元年度 活動報告

- ・発達障害及びその他の多様な障害に関する研修を講義形式だけではなく、施設職員のニーズに対応した研修形態で実施した。
- ・関係諸機関との連携並びに介助者派遣事業については、今後も具体的な方策を基に継続して推進をした。

【活動内容】

- (1) 委員会は年6回開催5月・6月・9月・11月・1月・2月
主な案件は、職員研修会・介助者研修会・各研修会の開催についての討議を行った。
- (2) 研修会の開催
 - ①職員研修会（4回）
「障害のある児童の統合育成」
第1回目 7月 5日（金） 久世西児童館
第2回目 9月27日（金） 住吉児童館
第3回目10月10日（木） 岩倉南児童館
第4回目12月 4日（水） 小野児童館
テーマ：「感覚統合を通じた発達支援」
講師：あーと・ねっと 作業療法士 灘 裕介氏
 - ②介助者研修会（2回）
「障害のある児童の統合育成①」 7月 9日（木） ひと・まち交流館京都
テーマ：「遊びの指導の実際」
講師：児童福祉センター 保育士 大森 万代氏
「障害のある児童の統合育成②」10月29日（火） 京都教育文化センター
方向付け：京都市児童館学童連盟 統合育成担当主任 岡崎 達也
講演：京都市上賀茂児童館 介助者 澤井 多江子氏
- (3) ケース検討会議の開催（8回）…全体会1回・各児童館：7回
全体会のテーマ：児童館におけるケース検討会（カンファレンス）の持ち方
講師：京都教育大学 准教授 田爪宏二氏
京都市児童館学童連盟 統合育成担当主任 岡崎 達也
・全体会は6月18日（火）に開催
・ケース検討会議は、7月・8月・9月（2事例）・10月・11月・12月に実施

(4) 「課題別実践交流会」(5回)

- ・第1回「コミュニケーションと環境」7月2日(火) ハートピア京都
講師：京都市児童館学童連盟 統合育成担当主任 岡崎 達也
- ・第2回「環境整備」7月16日(火) 京都市立北総合支援学校(見学を含む)
講師：京都市立北総合支援学校 若林 紀公子教諭 他 育支援センター教員
- ・第3回「支援グッズ作り～視覚・聴覚支援～」9月24日(火) 京都テルサ
講師：京都市児童館学童連盟 統合育成担当主任 岡崎 達也
- ・第4回「支援グッズ作り～コミュニケーションツール～」10月23日(火) 京都テルサ
講師：京都市児童館学童連盟 統合育成担当主任 岡崎 達也
- ・第5回「環境改善の取組から見えてきたこと」11月21日(火) 京都テルサ
講師：京都市児童館学童連盟 統合育成担当主任 潮田 真一・岡崎 達也

(5) 介助者派遣事業(通年)について

- ・大学、専門学校、障害児親の会、ボランティアサークル等へのポスター・チラシの掲示及び配架・配布依頼の実施。
- ・新聞、広報誌、機関誌への募集記事の掲載。

4 子育てボランティアバンク事業

1 令和元年度 事業目標

地域における子育て支援の風土づくりの一つとして、広く子育てに関心のある方にボランティアとして登録していただき、児童館や地域の子育ての場を支えるボランティアの人材を育成する。同時に、ボランティアを求める団体・施設からの情報も募集し、地域における子育てボランティア活動の活性化を図る。

ボランティア登録会員に対しては、活動のきっかけづくりとなる児童館ボランティア体験(年4回)、実際に役立つ技術を学ぶ講習会(年1回)、やんちゃフェスタなどのボランティアスタッフ体験(年2回)を実施、児童館職員に対しては、施設職員に対してボランティア受入れの工夫を学ぶ研修会(年1回)を実施するとともに、登録会員と施設とをつなぐ交流研修会も実施する。

2 令和元年度 活動報告

(1) 会員登録・募集情報の受付

登録会員数：305人 令和2年3月31日現在(令和元年度新規登録会員数は17人)

募集情報掲載数：30団体

(2) 講習会、交流研修会の開催

- ・登録会員向けに講義と実技、募集团体の職員向け講義、登録会員同士の交流会を実施。
- ・登録会員がボランティア活動を始めるきっかけとなるよう、児童館でのボランティア体験(4箇所)「やんちゃフェスタ(第1部)・(第2部)」でのボランティア体験を実施。

[成果]

- ・ボランティア体験に初めて参加される方が増えた。

- ・未活動であった会員がボランティア体験に参加し、活動への意欲を高めることができた。

日程	内 容	講師・施設	参加者数
10月3日 10月15日	ボランティア体験 ＜内容＞学童クラブ児童との遊びを通じた関わりを児童館で体験する。	京都市紫竹児童館 京都市小野児童館	4人
10月25日 12月10日	ボランティア体験 ＜内容＞乳幼児親子対象の乳幼児クラブ活動への関わりを各児童館で体験する。	京都市住吉児童館 京都市祥豊児童館	6人
10月26日	ボランティア体験 ＜内容＞京都やんちゃフェスタ 2019(第1部)のコーナースタッフとして「駄菓子・缶ジュース」「宝石すくい」各コーナーを担当。	梅小路公園	3人
10月29日	実技講習会 ＜内容＞バルーンアートの制作と実技の活かし方を学ぶ。	子育てボランティアバンク担当者	1人
11月16日	ボランティア体験 ＜内容＞京都やんちゃフェスタ 2019(第2部)のコーナースタッフとして、「バルーンアート」コーナーを担当。	みやこめっせ	3人
2月14日	施設向け研修会 ＜内容＞ 「出会い DE 愛ワーツとひろげようであいの輪・和・話」	京都市 西陣児童館 館長 中山 あい氏	15人

(3) 広報活動

- ・ホームページの運営

登録方法の案内(オンライン登録を含む)と、ボランティア募集团体の活動内容を掲載。

- ・チラシ・ポスターの配布・掲示
- ・児童館・学童保育所へ講習会等のチラシ配布、「れんめいニューズレター」への掲載、やんちゃフェスタ等イベント時のチラシ配布

5 広報活動

1 令和元年度 事業目標

- ・広報物については、読み手にとって親しみをもたれる誌面を目指し、常に誌面刷新の意識をもって活動を展開する。
- ・京都市児童館学童連盟の広報誌「キッズステーション」は、公益性を意識し、市民に対し児童館・学童保育所の活動をPRすることを目的に発行を行う。

- ・「れんめいニューズレター」は、職員情報誌として、職員研修会の報告、連盟の各委員会、理事会等の動きを正確・迅速に伝えることを目的に発行を行う。
- ・児童館・学童保育所の活動と当連盟の事業をPRするため、ホームページの管理・更新を行う。また、各施設においてホームページをとおした広報を適切に実施していけるように研修を行う。

2 令和元年度 活動報告

- (1) 委員会の開催(4回) … ① 6月13日(木)・② 9月17日(火) ③11月20日(水)・
④ 3月10日(火)

- (2) 広報誌「キッズステーション」の発行

①発行回数：年4回(4月・7月・10月・1月発行) 133号～136号

②発行部数：1回につき、約16,000部

③配付先：各児童館・学童保育所及び育成推進課、福祉・教育関係機関及び団体、各区子どもはぐくみ室、市内19か所の図書館、報道関係、京都府立総合資料館、連盟理事・監事等(約90箇所)

[主な記事]

133号(4月)：「児童館・学童保育所まつり」紹介

児童館の活動紹介

*4面コラム「スマホ時の子どもたちのために」前編 竹内和雄氏

134号(7月)：「発見!!児童館 さまざまな大人との関わりから子どもの成長へ」

「京都やんちゃフェスタ2019 第1部」予告

「児童館・学童保育所まつり」の報告

「夏のオアシス クールキッズステーション」について等

*4面コラム「スマホ時代の子どもたちのために」後編 竹内和雄氏

135号(10月)：「京都やんちゃフェスタ2019 第1部」紹介

「京都やんちゃフェスタ2019 第2部」予告

児童館の活動紹介

*4面コラム「1人の読者として絵本や書籍に浸りきろう」前編 田上恭史氏

136号(1月)：「児童館にいてみよう」

児童館の活動紹介

*4面コラム「読書の世界を広げよう」後編 田上恭史氏

- (3) 職員情報誌「れんめいニューズレター」の発行

①発行回数：年12回(毎月10日発行) 274号～285号

②発行方法：発行を知らせる全館所ファックスとアルファオフィスへの掲示、関係機関へは郵送

③配付先：各児童館・学童保育所 及び 育成推進課、関係機関、連盟理事・監事等(17箇所)

- (4) ホームページ「京都市の児童館」の更新

児童館・学童保育所の活動及び当連盟の事業を積極的にPRすることを目的として、当連盟の事業に関する情報を随時更新した。また、新たに「キッズステーション」の誌面を掲載した。

各児童館においては、自館で実施する事業の情報を随時更新し、タイムリーな情報提供を行った。その他、「見る側にとって欲しい情報を得ることができるページ作り」等を盛り込んだホームページ研修を行った。

(5) 連盟広報誌「キッズステーション」誌面の変更に向けて

- ・新しい誌面作りのテーマを考え、編集方針を協議
- ・アンケートの実施

誌面を刷新するための編集方針に基づいたアンケートを実施し、各施設からの意見を募った。

6 京都やんちゃフェスタ2019の開催

1 令和元年度 事業目標

テーマ「遊びの復権・子どもの人権の尊重・ノーマライゼーションの推進」に基づき2部構成で開催する。

第1部は「梅小路公園に児童館がやってくる!!」をキャッチコピーに、「ドキドキ ワクワク みんなの新時代」をサブテーマに掲げ、それに基づいた企画を展開するとともに、「子どもの参画」を意識した児童館・学童保育所のコーナー展開やステージでの司会体験等、子どもたちが活躍する場を要所で展開し、乳幼児から小学生、中高生の主体的な活動の場となるように企画し実施する。

第2部は主に乳幼児を対象とし、「子育て・子どもたちってこんなに素敵だよ!」をテーマに実施する。

2 令和元年度 活動報告

(1) 京都やんちゃフェスタ2019 (第1部) 実施内容

日 時：令和元年10月26日(土) 10時～15時30分

会 場：京都市梅小路公園

来場者数：約41,000人

内 容：ブロック・ステージ(中央・大宮芝生)・フィールド企画の3構成で実施。当日は晴天に恵まれ、数多くの親子連れで賑わうと共に、各種ブースで展開される遊びをとおした交流の場となった。また、今年度は来年度に開催する全国児童館・児童クラブ京都大会に向けて、「他都市の児童館コーナー」を新たに設け、他府県の児童館職員による遊びのブースと、京都市の児童館職員による遊びのコーナーを展開した。

○ブロック企画

児童館・学童保育所の活動をPRするため、遊びのコーナーを展開した。従来からの「子どもの参画」を意識した取組が行われ、子どもたちによる企画内容の紹介、順番待ちの参加者への対応、職員と同じような役割で企画の進行を行う等の工夫が見られた。

○ステージ企画

中央ステージでは、「オープニングセレモニー」(京都外大西高等学校チアリーディング)、「ライブトゥギャザー」「クッキーズコンサート」、「エンディング」の構成でプログラムを進行した。

大宮芝生ステージでは、「ストリートライブ」「マクドナルドショー」「ゆるキャラタイム」等を展開した。中央ステージより小規模という特性を生かし、一体感あるプログラム進行を行うことができた。

○フィールド企画

実行委員会によるコーナーでは「子どもたちの絵画展示」「駄菓子・缶ジュース」「宝石すくい」「他都市の児童館コーナー」等のコーナーを展開し、各関係機関・団体・大学のコーナーとして、京都市内の各大学のサークル・ゼミ等が展開した。児童館・学童保育所だけでなく各種団体の協力を得ることで、来場者がより楽しむことができるようコーナー展開を工夫することができた。

*「こころの中の『た・か・ら・も・の』」を絵画テーマに子どもたちの絵画作品を募集。

応募総数は1,927点となり、最優秀作品を京都やんちゃフェスタ2019のポスター・チラシに採用した。

(2) 組織体制

実行委員会（フェスタに関わる重要事項の審議・決定、予算及び決算の承認等）、業務部会（実行委員会の事務処理、事業の円滑な推進）、企画委員会（フェスタの企画立案・調整、業務部に提案）を設置した。

(3) 委員会の開催

実行委員会…3回、業務部会…4回を開催。その他各担当者による会議を開催した。

※京都やんちゃフェスタ2019（第2部）について

令和元年11月16日（土）、「みやこめっせ」にて実施。

ペンシルバルーンのコーナーやステージにて「子育て支援ステージ～児童館の『幼児クラブ』がやってくる♪～」を展開し、来場された乳幼児親子に児童館の活動をPRした。

来場者数は約13,500人。

7 子育て支援のための普及事業・京都市はぐくみ憲章の啓発活動

1 令和元年度 事業目標

公益社団法人として、広く市民・府民に子育て支援の場や機会を設け、子育て家庭に対し親子が共に楽しめるひとときを提供するためにスタートした事業である。連盟としては、様々なイベントへの参加を含め、連盟の果たす役割をアピールする機会の増加に努める。また、京都市が定めた「子どもを共に育む京都市民憲章(愛称:京都市はぐくみ憲章)」の普及啓発を図る。

2 令和元年度 活動報告

①「夏のオアシス！クールキッズステーション」

実施期間：令和元年7月1日～9月30日 平日及び土曜日 10時～17時

子育て親子や高齢者の方々を対象に、児童館を夏季の日中の居場所として提供し、京都市の節電対策に連携、各家庭での電力消費の削減に寄与することを目指して取り組んだ。

市内131箇所すべての児童館を地域における「クールスポット」と位置づけ、様々なイベントを実施することで、多様な年代の人々に児童館に親しんでもらうきっかけを作った。

②「子どもたちの願いを乗せて」 —京都市交通局・京都市産業観光局との連携事業—

市営交通のさらなる利用の促進と、児童館・学童クラブの取組をアピールするため、「子どもたちの願いを乗せて」が、今年度は京都市産業観光局とも連携し、「京の七夕」の一環として開催された。

市内の児童館・学童保育所135施設、1,102名の子どもたちが書いた願いごとの短冊が、令和元年8月1日（木）～8月12日（日・祝）の期間にわたり、地下鉄東西線市役所前駅・二条城前駅の構内に掲示された。また、展示初日のオープニングセレモニーでは、市役所前駅御幸町広場において、上京児童館の児童21名らが、「きらきら星」の合唱、館で日頃から練習している「丸竹夷ダンス」を披露するなど、児童館の取組を多くの市民・観光客の方々に見ていただき、広く児童館・学童保育所をPRする機会となった。

③「親子でにこにこ 笑顔いっぱい」～『子どもを共に育む京都市民憲章』をひろめましょう！～

日 時 : 令和2年1月25日（土）11時～15時30分

場 所 : 京都子ども文化会館 エンゼルハウス（京都市上京区）

公演内容 : 「京都是ぐくみ憲章ステージ」「ドラえもんショー」

子どもを共に育む京都市民憲章(愛称：京都是ぐくみ憲章)の普及を目指し例年実施するイベントである。昨年度に続いて午前の部・午後の部の2回公演を実施した。約1,000人の親子が参集し親子の絆を深めた。来賓として京都市長を迎え、京都市の子育て支援の取組について挨拶を得た。「京都是ぐくみ憲章ステージ」では、クッキーズのお姉さんたちが、子どもたちに人気の歌やダンスで会場を盛り上げ、京都是ぐくみ憲章のテーマソングを合唱し、憲章の理念と実践について理解を深めた。

④「第8回 京都子ども将棋交流大会」

日 時 : 令和2年2月29日（土）9時30分～17時

場 所 : 佛教大学 鷹陵館メインホール（京都市北京区）

洛和会ヘルスケアシステム主催、日本将棋連盟京都府支部連合会ならびに当連盟共催で開催予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和元年度の大会は開催を中止した。

8 読書好きの子どもになるための本の虫プロジェクト

1 令和元年度 事業目標

故小野英一氏からの遺贈寄附金を活用し、読書好きな子どもの育成を目的として、

- ・児童館・学童保育所における図書購入等の整備
- ・読書好きな子どもの育成を図るため、「本の虫プロジェクトーしおりコンクール」の開催等の事業を行う。

2 令和元年度 活動報告

児童館・学童保育所に対して、図書等整備費を配分し、その整備を図るとともに、児童館を利用する児童が、本に親しみ読書好きの子どもを育成することを目標として、「本の虫プロジェクト 第1回しおりコンクール」を実施した。

当コンクールの開催においては、児童館職員を対象としたしおり作成講習会の開催し、しおり作成指導のノウハウを学ぶ場を設けたことにより、第1回としては、多数の作品の応募を得られた。

しおりコンクール 応募点数 643点

応募されたしおり優秀な作品制作児童への表彰式(22名を表彰)と作品展示を、やんちゃフェスタ(第2部)(令和元年11月16日(土) 会場「みやこめっせ」)の場で行った。

9 大学と連携した学習支援事業

1 令和元年度 事業目標

京都市が、平成29年3月に「京都市貧困家庭の子ども・青少年対策に関する実施計画」を策定し、その具体策として、「行政」「大学」「児童館」がそれぞれの強みを活かし、「三位一体」となる連携のもと、「全ての子ども、若者が無限の可能性を發揮できるまち・京都」を推進する。

本事業は、「子どもの学力・学習等の状況」、「子どもの自己肯定感」に関する課題に着眼、これらの課題に対して、身近な子どもの居場所である「児童館」を活用し、地域の子どもたちへの学習支援に取り組むものとし、また、子どもたちにとって身近な「お兄さん、お姉さん」のような存在の大学生ボランティアの力を活かし、保護者以外の大人との関わりの機会を通じて、自己肯定感を高め、子どもの孤立化の解消を図る。

2 令和元年度 活動報告

(1) 事業の実施体制

児童館：施設の提供、学習支援事業のコーディネート

大学：大学生の派遣協力

大学生：子どもへの学習支援、相談支援

京都市：事業への助言、技術的指導等の支援

児童館学童連盟：事業を実施する児童館のサポート、大学生派遣の窓口＝児童館との橋渡し

(2) 実績

実施児童館について、昨年度事業実施児童館48館所から50館所へ拡大して実施した。協定締結大学以外の大学にも協力を依頼し、協定締結大学を含む関西圏31大学に所属する大学生が児童の勉強や遊びの体験や児童の学習への生活習慣づけを援助した。また、学習支援事業に参加した児童が約39,066人、援助をした大学生が2,041人となり、実績人数も増加傾向にあり、児童館事業として定着し効果も出てきたと認められる。

10 学童クラブ利用料算定事業

1 令和元年度 事業目標

京都市の学童クラブ利用料金は、保護者世帯の課税状況を元に決定する応能負担制となっている。連盟事務局では市内児童館 129 館・学童保育所 9 所の利用料算定事務を、会員からの委託を受け、公平・適正かつ速やかに実施することを目標に業務を進める。

2 令和元年度 活動報告

学童クラブの登録児童数は従来から増加傾向にあったが、「子ども子育て支援新制度」開始以降、利用対象児童が小学校 6 年生までに拡大されたことを受けて、利用者ニーズは拡大を続け、下記に示すように、令和元年度には登録児童数は 13,500 人を超えた。

施設における利用料金徴収事務負担は増え続けているが、連盟事務局では加盟団体における事務が滞ることのないよう、算定事業の体制を年々強化し、人員体制と機器の整備を強化し、迅速に利用料金の決定通知を施設に届けられるよう努めた。

また、平成 30 年度から京都市において学童クラブ利用料に係る「寡婦（夫）控除の見なし適用」が実施されたことを受け、京都市において、「寡婦（夫）控除の見なし適用」に認定された対象者の利用料金の再算定を行った。

学童クラブ登録児における利用料算定取扱件数の推移

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
児童数(人)	9,264	10,839	11,682	12,266	13,524	13,894
世帯数 (世帯数)	8,569	9,585	10,252	10,592	11,714	11,974

11 京都市家庭ごみ有料指定袋無償配布事業

1 令和元年度 事業目標

京都市においては「家庭ごみ有料指定袋制」実施にあたり、日常的に紙おむつを使用している市民に対する負担の公平性の原則に鑑み、紙おむつ使用世帯に対する特例措置として一新生児につき一回限り有料指定袋の無償配布を行っており、連盟は市環境政策局から新生児出生世帯に対する配布窓口事務を受託している。

市内 131 箇所の全児童館でスムーズな配布事業を遂行すると共に、新生児を持つ世帯に対し、児童館が実施している乳幼児対象事業ならびに子育て支援の機能について、周知広報することを目標とする。

2 令和元年度 活動報告

(1) 配布対象

京都市内の新生児を養育する世帯で、京都市保健福祉センターから届けられる「出産お祝いレター」の受取世帯を対象とする。

(2) 配布内容

出産お祝いレターに同梱されている「家庭ごみ有料指定袋無料引換券(新生児減免用)を有料指定袋無料引換券(新生児減免用)」を児童館に持参された保護者に対して、指定袋(燃やすごみ用)「30リットル袋40枚」、または「20リットル袋60枚」の引換配布を行った。その際、保護者に対し、児童館の乳幼児対象プログラムを記載したPR用のチラシ等を配布し、児童館の利用を促すためのPRを行った。

(3) 引換実績

児童館では毎月末に集計を行い事務局に報告、事務局では全館集計の結果を環境政策局ごみ減量推進課への報告を行った。令和元年度の総引換え件数は1,848件であった。

12 無料職業紹介事業

1 令和元年度 事業目標

児童館・学童保育所における人材の確保を進めることを目的に、平成31年1月に厚生労働大臣の許可を受け、「無料職業紹介 児童館人材マッチングセンター」を開設し、1年が経過したなかで、登録会員数、マッチング数も徐々に増えている。そのなかで、求人者(人材を求める運営団体)のニーズもきめ細かくリサーチし、求人者と求職者の双方に満足いくマッチングを実現し、連盟加盟各団体の児童館・学童保育所における人材確保を通じてその事業実施支援に努めていく。

2 令和元年度 活動報告

令和元年度には、児童館人材マッチングセンターのPRを推進するため、会員児童館の協力をえて、実際に児童館で働く職員が児童館職員として働くなかで掴んだ「やりがい」のある声を掲載し、児童館職員という職業の魅力を知ってもらえるパンフレットを作成した。

さらに、施設長会の協力を得て、積極的な広報活動を市内大学等の教育機関を対象に実施した。

マッチングセンター紹介事業実績(期間:平成31年4月1日~令和2年3月31日)

(1) 求職登録	正職員求職	18名
	臨時的任用職員求職	30名
(2) 求人登録	正職員求人	27名
	臨時的任用職員求人	52名
(3) 採用件数	正職員	8名
	臨時的任用職員	13名

13 大学生等職業体験事業

1 令和元年度 事業目標

児童館・学童保育所における人材の確保は、近年の労働環境の変化に伴い困難な状況が続いている

現状なかかたで、京都芸術大学（元京都造形芸術大学）、京都橘大学、京都市、連盟の4者が連携協定を締結し、児童館において実施する職業体験事業への学生の派遣、学生ならではの発想や行動力を活かした児童の健全育成活動の活性化、大学生の知識や技術の向上と人材育成を図り、今まで以上に、児童館で働きたいといった意欲を持つ学生を増やすことを目指す。

2 令和元年度 活動報告

令和元年度は、京都芸術大学から1名、京都橘大学から2名の学生が、児童館での職業体験を行った。参加した学生には、子どもたちとの関わりや事業体験だけではなく、職員会議への参加等、児童館で働くことを意識できる内容とした、学生への情報提供などを広く行うことができ、学生に児童館の職業体験事業を知ってもらいきっかけを作ることができた。

職業体験スケジュール（10日間の日程で行う）

項目	内容
事前説明会	・事業ガイダンス ・研修「児童館・放課後児童クラブの基本機能と役割について」 ・情報交換会
施設での職業体験	
振り返り	・レポート等に体験の振り返りをまとめて提出

14 京都市ファミリーサポート事業

1 令和元年度 事業目標

- ・多様化する子育て支援のニーズに対応するため、提供会員の増加を推進する。
- ・提供会員の資質向上のためレベルアップ講習を拡充する。
- ・活動中の事故防止に努める。
- ・支部での入会申込の受付・活動依頼の受付・登録会及び講習会を開催し、市民の利便性の推進を図る。
- ・提供会員向けに支部交流会を開催し、支部を拠点とした提供会員のネットワークづくりを推進する。

2 令和元年度 活動報告

- ・本部と市内14か所の支部と京北地域において、登録会の開催や活動依頼の受付・相談等に対応し、地域に密着した子育て支援に取り組んだ。
- ・提供会員に登録するための講習会の広報に力を入れ、年間40名の提供・両方会員を獲得した。
- ・「子どもの食生活」と「障害のある子どもへの対応」について、レベルアップ講習会を開催し提供会員・両方会員の資質向上に努めた。
- ・緊急救命講習（実技）の受講を提供・両方会員に必修とし、年間5回の講習会と年間4回のレベルアップ講習会（合計9回）に対応し、事故防止に努めた。全提供・両方会員1083人中、救命講習受講者が

259人しかいないため、追加開催を5回予定したが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のためすべて開催中止とした。

- ・平成30年度まで開催していた会員同士の交流会を、ファミリーサポート事業を啓発するイベントとして内容を変更し、イオンモール、やんちゃ2部で子育て中の方への啓発と子育てを終えた方へ提供会員獲得に努めた。
- ・全会員向けにお楽しみ講座「アンガーマネジメント～イライラしない子育て～」を開催し、子育てに悩む依頼会員へのアドバイスや、提供会員へ支援の方法について講演を行った。定員50名を超える申し込みがあったため、会場の定員80名まで申し込みを受け付けた。
- ・令和元年10月より開始された幼児教育保育の無償化制度について、ファミリーサポートの活動も一部無償化が適用されることとなった。それに伴い、利用方法についての変更点（活動の事前連絡について方法の限定・報告書の記載方法・報告書への押印義務化）、申請方法などを会員へ知らせるため、「ファミリーサポート一部無償化利用ガイド」を作成し、全会員へ送付した。

(1) 統計

(令和2年3月末現在 単位：人)

(単位：件)

会員種別	会員数	元年度増	元年度減	令和元年度 活動総数	7,141
依頼会員	5,646	620	△706	<活動件数 上位の内訳>	
提供会員	915	34	△95	1	保育施設の迎え及び帰宅後の援助
両方会員	180	28	△30	2	子どもの習い事等の援助
合計	6,741	682	△831	3	学童クラブの迎え及び預かり

(2) 会議・講習会・交流会等実績

	内 容	時間数	回数
地域リーダー会議	交流会開催の打ち合わせ・会報誌の企画等	2時間	12回
支部長会議	事業計画・実行・統括	2時間	3回
登録会(本部4回・支部42回・京北3回)	依頼会員に登録するための登録会	1時間	49回
講習会(本部2回・支部3回)	提供・両方会員に登録するための講習会	7時間40分	5回
レベルアップ講習(実技)	普通救命講習Ⅲ	3時間	4回
レベルアップ講習(講義)	子どもの栄養と食生活	1時間30分	1回
レベルアップ講習(講義)	支援の必要な子どもへの対応	1時間30分	1回

交流会・啓発活動	開催日時	実施場所	参加人数
イオンモールでの啓発活動	10/13	イオンモール京都五条	211
やんちゃフェスタ(第1部) ブース設置による啓発活動	10/26	梅小路公園	-
やんちゃフェスタ(第2部) ブース展示「ファミリーサポートで知っている」	11/16	みやこめっせ	314
お楽しみ講座「アンガーマネジメント～イライラしない子育て～」	2/8	京都経済センター	76

(3) 広報実績

	回数・部数	内容
会報誌「ふあみさぼ通信」発行	3回 24,000部	全会員及び関係機関に配布
市民しんぶん掲載	全市版5回	講習会開催のお知らせ
一般新聞掲載	4回 京都新聞	講習会開催の案内
冊子掲載「子どもネット下京」	1回	京都市ファミリーサポートセンターの紹介
子育てピアサポートセンターweb掲載	1回	2/1 洛西支部登録会体験取材
冊子掲載「ボランティアーズ」	2回	京都市ファミリーサポートセンターの紹介と提供会員の募集

II 施設運営

1 児童館の運営

1 令和元年度 事業目標

連盟が京都市から指定管理者として受託運営する8箇所の児童館は、地域の関係団体とも連携を密にし、地域における子育て支援の拠点として、市民の期待に応えられる施設運営に取り組んでいく。

2 令和元年度 活動報告

各児童館の令和元年度の事業目標と成果は下表のとおりである。

なお、各児童館においては、新型コロナウイルス感染拡大防止のための措置として、令和2年2月28日から、

- ①市立小学校以外の小学校（私立・国立）の登録児童について、同校での預かり等の措置がない場合は午前8時から対応する。
- ②学童クラブ事業での公共交通機関による移動を伴う活動・不特定多数の人と接触が想定される活動を中止する。
- ③自由来館事業を中止する。
との対応を行った。

		児童館事業	学童クラブ事業
壬生児童館	目標	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て家庭が地域で孤立しないよう保護者同士が交流し、つながりをもてる機会を作る。 ・子育て家庭に対し、関係機関等と連携し、広報活動を強化し、保護者のニーズの把握に努め、地域での暮らしを支えるネットワークを作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの個々の状況に応じた生活力獲得へ向けた指導・支援の推進。 ・遊びを通じた、自立心や協調性、判断力、行動力等を育成する活動の推進。
	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児クラブ（登録制）は週3日、3クラス（0歳児・1歳児・2歳児以上親子）を継続して行うことで、ニーズに応え、子育て家庭が交流できる機会を生み出すことができた。 ・ランチタイムや子育て支援講座を開催することで、乳幼児クラブ登録者を中心に子育てネットワークの構築に向けてのきっかけづくりを行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人懇談を継続して行うことで、個々の状況に応じた指導・支援を推進することができた。 ・「わくわく子どもマーケット」や「感謝の会」等、各行事に向けた取組を通して、自立心や協調性、判断力、行動力等を育成することができた。 (感謝の会に向けた取組は行ったが、会は新型コロナ対策のため中止。)

七条第三児童館	目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の気持ちに寄り添った子育て支援の実施。また利用者が気軽に話せる関係や居心地の良い環境をつくる。 ・地域の機関と連携し、虐待の防止、支援が必要な家庭への援助を行う。 ・遊びや行事を通し、子どもたちの健全育成に努める。 ・思春期児童の居場所を確立する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣や社会性が身につくように指導する。 ・子どもたちが主体となる取組を増やし、生活場面に応じた判断と行動力を育む。 ・活動を細かく振り返る計画会議を半期ごとに実施し、施設としての共通意識を高めていく。 ・高学年の場づくりとして友だちや保護者、職員との関係を深められる取組を常に意識する。
	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・自由参加で行っている「遊びの広場」を定期的に利用する方が増え、子育ての悩み等の相談から、気持ちに寄り添った対応につなげることができた。 ・10周年事業を多くの方に広報することで、児童館の周知につながった。 ・中高生と赤ちゃんとの交流事業等で、中学校と定期的に連携をとることができた。また、居場所を必要とする中高生が参加することで自己肯定感を高めることにつながった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高学年という意識の中で、上級生が新1年生に対して丁寧に学童クラブの生活を教えてくれた。 ・子どもが主役となれるよう当番活動を積極的に取り入れた。また、夏休みは自分たちが考えた遊びを子ども同士で話し合い遊びつくした。 ・高学年の居場所づくりとして、高学年に合った生活時間を自分たちで決めるよう促し、行動させた。
今熊野児童館	目標	<ul style="list-style-type: none"> ・異年齢の子ども達同士が自発的に遊べるよう働きかけ、遊びが継続、発展するように援助する。 ・取組み等では、地域の子どもが参加しやすいように実施日や時間帯を考慮し興味を持てるような内容を考える。 ・高学年や中高生に企画段階から参画を促し準備・運営まで子ども達自身で進められるように導く。 ・地域の方や子どもについて、状況やニーズを把握し、楽しく交流できるプログラム作りを行う。 ・地域住民全体が対象となる行事等については広報の範囲を拡大する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな遊びや取組みを通じて個人、集団ともに「遊ぶ力」を育て、子ども、保護者ともに安心安全な生活の場となるよう援助する。 ・人をいたわる心を縦割りの集団生活を通して育み、社会性を身につけ、主体的に行動できるよう援助する。

	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・自由来館児童の利用が増えるように広報紙面の工夫やポスター掲示などを行った。また、利用児童に行事や取組み等への声かけなどを積極的に行うことで、興味を持ち参加する子どもが増えた。 ・高学年の活動では、高学年対象のクラブは高学年同士で楽しみ、異年齢で関わる行事などの企画や運営に関しては、準備から当日の運営まで下級生が楽しめるようにリーダーシップを発揮してくれた。 ・地域との関わりでは、子どもとの交流を楽しみに参加する方が多く、世代を超えた関わりにつなげることができた。そのことで、地域の中で子どもを見守る目も増え、相互に良い関係づくりとなっている。 ・地域の方と子どもが遊びの交流(昔遊びなど)を行うことで、継続的な関係づくりにつながっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・異年齢での集団生活の中で、さまざまな活動を通じて、成功体験や達成感を得ることができた。 ・集団遊びについては、得手不得手問わずいろいろな遊びを体験することで、仲間と協力する機会を作ることができ、協調性を養うことにつながった。個人遊びについては、自分たちで創意工夫して遊べる環境づくりを進めることで、一人ひとりの「遊ぶ力」を育てる事につながった。 ・班活動において、学年に応じた役割分担をすることで、社会性や思いやりの心を身につけ、リーダー育成につなげることができた。 ・日々子どもたちの成長を通信やアルバム、懇談会、保護者送迎時等に小まめに伝えることで、保護者との信頼関係の構築につながった。
四ノ宮児童館	目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に根ざし、地域に親しまれ、頼りにされる児童館を目指す。 ・地域の各種団体と連携し、地域の子育て支援に貢献する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・異年齢集団を活かした活動を行い、生活や遊びを通して社会性を身につけ、生きる力を育てる。 ・児童、保護者との信頼関係を築き、個々の状況に合わせた家庭支援を行う。
	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児クラブや子育てパワーアップ講座、子育て相談の取組み等を充実させる中で、利用の定着化と、ニーズに合わせた児童館利用につなげることができた。 ・お習字クラブでは、毎月、作品を京都新聞へ応募し、掲載していただくことができた。そのことで、活動を広く知っていただくことへとつながった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高学年児童の利用が多く、低学年と高学年との関わりについての課題もあったが、異年齢でさまざまな活動を行うことで、児童の自主性、協調性を育むことができた。 ・家庭や小学校、児童福祉センターと連携し、サポートが必要な児童や家庭に対して、個々の状況に応じた支援を行うことができた。 ・学習、読書の習慣が身に付き、児童自らが進んで取り組むことができるようになった。
梅津北児童館	目標	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者からの多種多様なニーズに応えられる多機能性を生かし、地域全体で子どもを育てていくための中核的役割を果たす。地域に寄りそえる拠点となり、子どもの最善の利益を優先した心身の育成を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学童クラブを、「安心できる居場所・拠り所」として確立してゆく。 ・縦割り集団としての連帯感を深め、互いの違いを認め尊重し合える関係を築く。 ・個々の状況に応じた援助の下、自主・自立に向け、生きる力を育む。 家庭や関係機関と連携し、保護者が安心して子育てできるよう支援する。

	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児クラブ・広場活動の充実及び地域との連携事業により、児童館への理解が促進され、多様なネットワークの構築や地域ボランティアの活動の場として認識が深まった。 ・中学校と連携することにより、思春期児童を対象とした活動を充実させることができ、日常の居場所・拠り所としての活用につなげることができた。 ・利用者だけではなく地域のニーズや実態把握に重点をおいたことで、より細かい個別の支援や要望に沿った活動につなげることができ、地域と連携した幅広い交流活動を展開することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員間の共通理解や保護者・小学校との情報共有の下、個々の状況に応じた支援を行ったことで、児童の心身の安定につながった。 ・縦割りを意識した班活動や学年別グループ等における活動、中・高学年の生活を意識した活動により、自主性や自己肯定感が高まり、社会性の養成につながった。 ・地域住民や地域各種関係機関に所属する幅広い年齢層の大人たちとの関わりの中で、社会性が生まれ、見守られ慈しまれている実感を得ることで地域への愛着の基礎が培われた。
西京極西児童館	目標	<ul style="list-style-type: none"> ・来館者にとって居心地の良い場所を提供する。 ・職員の個性を生かした計画、立案をする。 ・地域、関係機関との連携を密にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の場として居心地のよい場所作りと異年齢とクラス別をいかした活動を心がける。 ・学童クラブ修了後の生活を見据えた活動を行う。 ・保護者との信頼関係を大切にする。
	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・0歳児を対象とした乳幼児クラブについて、これまで半年ごとの月齢に分けて実施していたが、今年度は月齢の幅を1年に広めて実施した。その結果、日程を選択でき、他の子どもを見てこれからの自身の子どもの成長をイメージすることや、また一方で自身の子どもの成長過程を振り返ることにつながった。さらに、保護者同士による子育ての相談も生まれた。 ・各種行事について、館内だけでなく地域に向けて広報していくことで、多世代が参加する行事につながった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス別の活動を充実させた結果、少人数の中で子どもたちが意見を述べやすくなり、積極性が育った。職員の日も行き届きやすく個別の対応につながった。 ・高学年児童が高学年会議で自分たちの生活について話し合った結果、自らの行動に責任を持つ姿が見られたり、低学年が楽しめるような活動の提案を行ったりするなど、主体性や低学年を思いやる気持ちを育むことができた。 ・保護者個人懇談会を開催し、それぞれの家庭や児童館での子どもの様子を共有することができた。また、親子交流会を実施することで気軽に話せる関係が少しずつ定着した。
南浜児童館	目標	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びを通じ子どもたちの健全な育成と社会性の向上・自立心を養う。 ・地域の各種団体と連携し子育て家庭の支援に力を入れると共に、地域の方々との交流を図る。 ・中高生の居場所作りにも力を入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの地域や家庭でおかれている状況を把握し、保護者・学校・地域と連携しながら、社会性を養い、基本的な生活習慣を確立させる。 ・集団生活の中で自立心・責任感を育成し協調性を養う。

	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊びや行事を通して、友だち関係の構築を図ることができた。 ・各種団体と連携を取りながら行事に取り組み、今年度も区民活動支援事業として引き続き学習支援などの取組にも力を入れることができた。 ・中高生クラブは、定着した利用につながるように声掛けを積極的に行ってきたが、学校のクラブ活動や学習塾に忙しく、思うように中高生クラブの開催日程と合わなかった。来年度に向けて声掛けや日程調整を考えたい。 ・今年度も、インフルエンザによる学級閉鎖で行事の中止があった。また、年明けと共に新型コロナウイルスが蔓延し始め、3月に入ると児童館事業の中止で、幼児クラブ等の午前中の行事が中止になり3月以降の来館者も減少してしまった。 ・月曜日に取り組むあそびの広場+αは、軌道に乗り徐々に登録も増えてきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者・学校との連携を密に行い、地域とのつながりを意識した行事を行うことで、学童クラブ登録児童と地域住民との交流を促すことができた。 ・今年度は、新1年生の登録数がかなり多く、1年生を中心に行事を考えて行った。 ・全体の登録児童数としてもかなり多く、あそびの中で一緒に遊ぶのではなく、見守りに徹することも多かった。 ・別館との架け橋としてスノコを敷き、自由に行き来できるようにした。そのことにより子どもたちの活動の幅も広がった。 ・外遊びの希望が多く、園庭が狭くなった分、曜日・時間ごとに遊びの内容を決め、学年ごと・クラスごとと工夫をし、外遊びを楽しんだ。
<p>横大路児童館</p>	<p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援事業の充実を図る。 ・伸び伸びと活動する中にも規律を重視する。 ・各種地域団体との連携を密にする。 ・しもよこっ子開催団体として連携を強化する。 <p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登録制の乳幼児クラブは、定員を超える申込みがあり、ニーズに沿った取組を行うことができた。また、ベビーマッサージについても定員超えの予約があり、2日目を設定しなければならぬほど人気が高かった。 ・ママダンスは、動きが少し激しいので利用人数は低下ぎみだが、マミーズヨガの人気は衰えることなく、いつも限度いっぱい10人前後の利用がある。癒し効果、運動不足解消のために好評である。 ・一寸ぼうしの広場等の事業を通じて、活動場所の提供をしたり、地域の事業に職員を派遣することで地域との連携を図ることができた。 ・「もちつき会」に代わる全世代向けの「春の館まつり」を企画したが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童館の決まりを学び身につける。 ・規律のある生活習慣を身につける。 ・手洗い、うがいを徹底する。 ・登下館の際の安全指導を徹底する。 <ul style="list-style-type: none"> ・児童館目標の朗読、月のきまりの唱和をお帰りの会の際に実践することで、決まりやルールを遵守できるようになった。 ・手洗い、うがいの指導等を行い、規律のある生活習慣を身に付けることができた。 ・遊びやクラブ活動を通じて、遊びの中にもルールやマナーがあること、守らないと怪我をする場合があること、みんなとの調和を図らないと団体行動ができないこと等を学ぶ機会を提供することができた。 ・一昨年からの取組として、午後5時から30分間読書タイムを行った。それが根付きつつあり、真剣に読書する子どもが増えてきた。

2 つどいの広場運営事業

1 令和元年度 事業目標

京都市から京都市子育て支援活動いきいきセンターの運営を受託して実施する事業である。連盟が運営する「のこちゃん広場」が立地する洛西竹の里地区は少子化が進行し、特に0歳～3歳までの未就園児親子が、自然に親子同士で交流し、仲間作りをする機会が少ない状況にある。その中で、子育て親子の孤立化を防ぐことが趣旨の一つであるつどいの広場の運営にあたって、以下の目標を掲げて事業を実施する。

- (1) 子育て親子同士が交流を促進できるイベントを継続的に実施する。
- (2) 地域との交流を重視し、洛西地域の近隣施設との連携の下、子育て関連情報発信の場とする。
- (3) アットホームな雰囲気の中で、子育ての悩みや相談を気軽に専門知識を持つアドバイザーに対して気軽に相談できる態勢づくりをする。

2 令和元年度 活動報告

所在地：京都市西京区大原野東竹の里町三丁目1番地 洛西東竹の里市営住宅集会所（中央）内
利用対象：市内の子育て中の親子（主に乳幼児を育てる親とその子）
開設時間：午前10時から午後4時まで
休所日：水曜日、日曜日、祝日、年末年始（12月29日～翌年1月3日）
利用料金：無料（ただし、材料代等の実費負担を必要とする場合がある。）

令和元年度ののこちゃん広場では、複数の子育て親子のふれ合いの場として、「絵本の日(読み聞かせと手遊び・パネルシアター等の組み合わせ)」を毎週2回、「一緒に遊ぼう(家庭においても親子と一緒に楽しめる遊びを紹介する取り組み)」を月1回実施した。赤ちゃんのころから絵本に親しむ土壌を作り、体を使った遊びをあまり知らない保護者に対し、子どもとスキンシップをとりながら安全に遊ぶ方法を伝える取組であるが、こういった場の中で、保護者同士が気軽に言葉を交わし、親子共に仲間を増やしていくという流れが生まれた。

また、乳幼児連れの保護者だけでなく、地域からの参加者も受け入れるヨガ教室では、幅広い世代が子育て家庭と知り合うきっかけを作った。地域の中で様々な年齢の人たちが子育て世代を気にかけて、いたわりあえる風土を培うように、地元に対して働きかけた。

さらに、アドバイザーは、子育てによる疲れを感じたり、子どもの発達に対する悩みを持つなど、様々な事情を抱える親子のケースに適切に対応できるようスキルアップに努め、洛西子育て支援センターをはじめ、地区の子育て関連の諸団体との連携につとめた。

新型コロナウイルス感染拡大防止のための措置として、つどいの広場事業が不特定の児童間の接触があることから、京都市の対応の一環として、令和2年2月28日から休所した。

Ⅲ 法人管理

1 会員

会員数 平成31年4月時点 56会員

新規加入 0件

退会 1件

宗教法人 天徳院 令和2年3月31日退会

東福寺児童館を運営していた宗教法人天得院から退会届けが提出された。

令和2年3月末会員数 55会員

2 総会・理事会

令和元年度（平成31年4月から令和2年3月）の総会・理事会の開催経過は次のとおりです。

(1) 総会

会議の通算回数、開催日 (又は決議成立の日)及び 場所	出席者数等	議 題
第10回定時総会 (平成30年度決算総会) 令和元年5月27日 ANAクラウンプラザ ホテル京都	会員社員総数56名 出席会員社員数43名 (うち書面による出席者 16名)	○承認事項 (1) 平成30年度事業活動報告の承認 (2) 平成30年度収支決算報告の承認 (3) 役員選任の承認
第11回臨時総会 (令和2年度予算総会) 令和2年3月31日 ANAクラウンプラ ザホテル京都	会員社員総数56名 出席会員社員数49名 (うち書面による出席者 33名)	○議決事項 (1) 令和2年度事業計画の議決 (2) 令和2年度当初予算の議決

(2) 理事会

会議の通算回数、開催日 (又は決議成立の日)及び 場所	出席者数等	議題
第44回 理事会 令和元年5月10日 京都テルサ	理事総数 24名 定足数 12名 理事出席 14名 監事出席 2名	○承認及び議決事項 (1) 平成30年度事業活動報告の承認 (2) 平成30年度収支決算報告の承認 (3) 役員選任の議決 ○協議・報告事項等 「第17回全国児童館・児童クラブ」京都大 会開催日程について

第45回 理事会 令和元年5月27日 リーガロイヤルホテル京都	理事 24名 定足数 12名 理事出席 23名 監事 3名	○議決事項 (1) 会長、副会長、常務理事の選定の議決 (2) 副会長の職務順位
第46回 理事会 令和元年8月8日 京都テルサ	理事総数 24名 定足数 12名 理事出席 16名 監事出席 2名	○承認及び議決事項 (1) 令和2年度京都市予算に対する要望書 (2) 令和元年度第一次補正予算の議決 ○協議・報告事項 「第17回全国児童館・児童クラブ」京都大会について、他6件
第47回 理事会 令和2年1月31日 メルパルク京都	理事総数 24名 定足数 12名 理事出席 17名 監事出席 2名	○議決事項 (1) 令和元年度第二次補正予算の議決 (2) 公益社団法人京都市児童館学童連盟文書事務管理規程の制定 (3) 公益社団法人京都市児童館学童連盟経理規程の改正 (4) 公益社団法人京都市児童館学童連盟職員出張旅費規程の改正 (5) 寄付受納 ○報告・協議事項 「第17回全国児童館・児童クラブ」京都大会実行委員会について、他10件
第48回 理事会 令和2年3月13日 京都テルサ	理事総数 24名 定足数 12名 理事出席 19名 監事出席 1名	○議決事項 (1) 令和2年度事業計画の議決 (2) 令和2年度当初予算の議決 ○報告・協議事項 「第17回全国児童館・児童クラブ」京都大会実行委員会等について、他2件

3 指定管理者選定対策講習会開催

令和元年度京都市児童館指定者管理者選定において、競合候補者との配点差が均衡した結果が出たため、会員が指定管理者選定に勝ち抜くための対策を行うことが必要であることから、「指定管理者選定における勝つための提案書づくりとプレゼンテーション」と題して会員向け講習会を開催した。

第1回 令和元年12月17日 キャンパスプラザ京都 参加者107名

第2回 令和2年1月30日 ルビノ堀川 参加者94名